

たまねぎレポート【第388号】



令和2年2月26日

阪南青果株式会社

社内報

1月の天候は、東・西日本の気温は記録的な高温であった。日本海側を中心に、降雪量は記録的に少なかった。沖縄・奄美では、降水量はかなり少なく、日照時間がかかなり多かった。2月も平年に比べ気温の高い日が続いている。

気象庁の3～5月の3か月予報では、この期間の平均気温は、全国で高い確率50%で、春の訪れが早まりそうである。月別予報は次の通り。

3月、北日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

4月、全国的に天気は数日の周期で変わる。北・東日本の太平洋側と西日本では、平年と同様に晴れの日が多い。

5月、北日本と東日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わる。東日本の日本海側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

1月の建値市場の野菜の販売量は、208,188トン前年比103%、市場別には多少のバラツキがあるが、総じては前年比増であった。平均単価はkg ¥217前年比95%となっている。ハクサイ、キュウリ、ニンジン等が前年比大幅高となり、平均価格を引き上げたが、総じては前年比安であった。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比105%、平均単価はkg ¥181前年比89%。東京市場の販売量は前年比103%、平均単価はkg ¥234前年比97%。名古屋市場の販売量は前年比102%、平均単価はkg ¥216前年比95%。大阪本場は前年比106%の販売量で、平均単価はkg ¥199前年比88%。福岡市場は前年比100%の販売量で、平均単価はkg ¥163前年比97%となっている。

建値市場の1月の玉葱販売量は21,243トン前年比104%で、漸く前年比増に転換した。平均単価はkg ¥84前年比63%で、依然単価は大幅安であった。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は3,393トン前年比114%、平均単価はkg ¥59前年比54%。東京市場の販売量は8,126トン前年比99%、平均単価はkg ¥95前年比66%。名古屋市場の販売量は4,45

5トン前年比89%、平均単価はkg¥82前年比67%。大阪本場の販売量は3,425トン前年比126%、平均単価はkg¥85前年比58%。福岡市場の販売量は1,844トン前年比112%、平均単価はkg¥85前年比66%となっている。いずれの市場も、平均単価は前年比大幅安で、依然厳しい販売環境が続いている。

日本農業新聞社の調べでは、主要7地区の代表荷受7社の1月の主要野菜14品目の販売量は、88,8307トン前年比1%増、平均単価はkg¥128前年比5%安となっている。販売量が前年比増の品目は、ハウレンソウが前年比13%増、キャベツ・結球レタスが12%増など8品目。前年比減の品目は、サトイモが前年比21%減、キュウリが11%減、トマトが10%減など6品目。価格が前年比高であった品目は、ハクサイがkg¥52で前年比37%高、キュウリがkg¥529で31%高、ニンジンがkg¥93で7%高、ダイコンkg¥59で7%高など6品目。前年比安の品目は、タマネギがkg¥71で前年比37%安、キャベツがkg¥58で26%安、ジャガイモがkg75で26%安など8品目となっている。

東京都中央卸売市場の1月の野菜の入荷は、119,512トン前年比103%（前月比92%）。平均単価はkg¥234前年比97%（前月比97%）となっている。安値が続いた野菜の一部の品目が入荷減で大幅高となったが、総じては入荷増の価格安であった。入荷が前年比増の品目は、キャベツが前年比120%、ハウレンソウが119%、パレিশヨが109%など9品目。入荷が前年比減の品目は、キュウリが前年比89%、サトイモが90%、ニンジン・トマトが91%など6品目。販売単価が前年比高の品目はハクサイがkg¥60で前年比160%、キュウリがkg¥607で133%、ニンジンがkg¥129で126%など6品目。前年比安の品目は、玉葱がkg¥95で前年比66%、キャベツがkg¥68で68%、パレিশヨがkg¥87で73%など9品目となっている。

東京都中央卸売市場の1月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年 比 (%)	前月 比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	119,512	103.4	92.3	234	96.7	96.7
た ま ね ぎ	8,126	99.4	85.0	95	65.9	123.4
キ ャ ベ ツ	15,382	120.1	109.9	68	68.1	97.1
は く さ い	13,992	98.7	88.5	60	159.8	111.1
だ い こ ん	11,290	102.9	95.6	75	111.8	86.2
ば れ い し ょ	8,307	108.9	93.8	87	73.2	100.0
レ タ ス	7,409	106.7	97.3	209	87.0	93.7
に ん じ ん	6,378	90.5	78.9	129	126.0	91.5
ね ぎ	5,416	104.2	93.4	263	98.6	85.7
ト マ ト	5,243	90.9	103.8	336	107.2	88.2
き ゆ う り	4,062	89.2	104.5	607	132.7	111.2
か ぼ ち ゃ	1,881	103.2	65.1	200	95.5	113.6
な が い も	781	115.2	87.9	275	78.7	97.2
れ ん こ ん	667	99.6	54.2	460	105.8	95.8
に ん に く	295	109.7	88.9	707	85.8	95.7

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の1月の玉葱の入荷量は8,128トン前年比99%(前月比85%)。北海物主力で北海物の入荷は、6,851トン前年比96%、占有

率は84%前年比4%ポイントダウン。静岡物は954トンの入荷で前年比191%、占有率は12%前年比6ポイントアップ、中国物は206トンの入荷で前年比47%、占有率は3%前年比2ポイントダウン。総平均単価はkg ¥95前年比66%(前月比123%)静岡物の併売で価格が上昇。産地別では、北海物はkg ¥77前年比56%。静岡物はkg ¥211前年比75%。中国物はkg ¥103前年比123%となっている。

2月に入ってから、北海物の入荷は増加傾向で、前年を大きく上回る入荷が続いた上に、静岡物の入荷がピークを迎えた。更に愛知物が加わり、需給は供給過剰状態となった。北海物の仕切り値は、L大 ¥1,200、¥1,000に値下がりしたもの、市況低迷で依然採算割れの厳しい販売環境が続いた。静岡物も売れ行き鈍化で値下がりが続いた。愛知物は人気なく ¥1,000前後の成り行き売りとなった。コロナウイルスの影響で、中国物の輸入が激減しているが、今の処市況に影響は出ていない。此処に来て、北海物の入荷は増加傾向で、荷動きは鈍く、連続入荷のJA 銘柄も下値中心の動きで、入荷が不安定の商系銘柄は更に安い。昨今、春日和の温暖化で、発芽が懸念され留め置きは出来ない。静岡物の入荷は特定荷受けに集約され、入荷は市場毎にバラツキがあり、総じては品薄高傾向である。愛知物も未だ走りの段階で入荷は少ない。

2月1日～20日の玉葱の入荷量は7,672トン前年比124%、平均単価はkg ¥85前年比54%となっている。産地別では、北海物の入荷は5,690トン前年比117%、平均単価はkg ¥68前年比48%。静岡物の入荷は1,693トン前年比174%、平均単価はkg ¥135前年比55%、中国物の入荷は135トン前年比49%、平均単価はkg ¥107前年比126%となっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の1月の玉葱販売量は、4,455トン前年比90%(前

月比58%)で前年比、前月比とも減となっている。主力は北海物で、販売量は4,157トン前年比86%、占有率は93%で前年比4%ダウン。静岡物の販売量は240トン前年比282%、占有率は6%前年比4ポイントアップ。愛知物は32トン前年比359%、占有率は1%(0.7%)となっている。総平均単価はkg82前年比67%(前月比112%)で、前年比安、新物との併売で前月比高となった。産地別では、北海物はkg¥73前年比62%、静岡物はkg¥226前年比60%、愛知物はkg¥201前年比34%となっている。

2月に入ってから、北海物の入荷は増加傾向であったが、売れ行きは鈍く荷余り傾向が強まり、在庫が日毎に増加した。表面相場は保合だが、内容は連日弱気配で軟調の一途であった。静岡の新物もピークを迎え入荷増となったが、荷動きが鈍く下値中心の販売が続いた。地場の愛知物も未だ出回り量が少なく、球流れは2L、L中心で申し分がないものの、品質的には静岡物に比べ見劣りし、売り辛い状態が続いている。現在も、静岡物は引き合いが強く買参人の注文に応じられていない。愛知物も隔日の入荷で、新物は此処しばらく品薄高が続きそうだ。北海物は依然荷動きが鈍く、手持ち在庫を抱えながら、苦しい販売を続けている。特に、Lサイズが動かない。

大阪本場

大阪市中心卸売市場本場の1月の玉葱の販売量は、3,425トン前年比126%(前月比83%)で前月に続き前年比増、前月比減であった。主力の北海物は、2,550トン前年比120%、占有率74%前年比3ポイントダウン。兵庫の冷蔵物は597トン前年比124%、占有率は17%で前年比1ポイントダウン。静岡物は262トン前年比206%、占有率は8%前年比3ポイントアップ。総平均単価はkg¥85前年比58%(前月比115%)静岡物の併売で平均単価が上昇。産地別では、北海物はkg¥67前年比50%。兵庫物はkg¥110前年比6

7%。静岡物はkg¥210で前年比71%となっている。

2月に入ってから、北海物の入荷は増加傾向で、JA 銘柄も上値は殆どなく、中値～下値中心の販売で軟調相場が続いている。兵庫の冷蔵物は終始安定的な入荷であるが、引き合い弱く軟調である。静岡の新物も入荷は日毎に増加し、荷動き鈍化で軟調相場が続いたことで入荷は減少した。生育前進化で長崎物の走りが入荷したが、静岡物に押されて値が取れず入荷は激減している。

此処に来て、静岡物は引き合い強く、割り当て販売となっている。長崎物は静岡物に比べ、品質的には見劣りするものの、静岡物の代替え需要で割高に売れている。北海物は、新物に比べ割安が受け、この2～3日当日入荷分は即日販売となり、荷動きが回復の様子だが、一過性の動きと受止められている。

2月1日～20日までの入荷量は3,612トン前年比167%、平均単価はkg¥75前年比49%。産地別では、北海物の入荷は2,238トン前年比142%、平均単価はkg¥63前年比46%。兵庫物は339トンの入荷で前年比100%、平均単価はkg¥94前年比59%。静岡物の入荷は408トン前年比197%、平均単価はkg¥130前年比51%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の1月の玉葱販売量は、1,845トン前年比121%(前月比88%)で、前年比増、前月比減となっている。北海物主力で北海物の販売量は1,565トン前年比121%、占有率は85%前年比6ポイントアップ。中国物が164トン前年比58%、占有率10%前年比7ポイントダウン。愛媛物が61トン前年比180%、占有率4%で前年比2ポイントアップ。総平均単価はkg¥85前年比66%。(前月比104%)。産地別の平均単価は、北海物がkg¥81で前年比59%、中国物がkg¥94前年比132%。愛媛物はkg¥112前年比57%となっている。

2月に入って、北海物の主力産地に出荷調整を要請し、価格維持に努めると共に手持ち在庫の減少を図った。入荷は北みらい、富良野が主力で、転送業者から格安物の販売打診があるが、受けていない。愛媛の冷蔵物は隔日に7～8トンの入荷あり、品質は良好だが値が出なく廉価販売となっている。長崎物は日量3～10トンの入荷で不安定だが、品質良好で堅調な動きであった。

此処に来て、長崎物の入荷は増加傾向だが、日量30～15トンと不安定ながら、引き合い強く品薄高が続いている。愛媛の冷蔵物の入荷は週2回に減少したが、常連客あり順調に捌けている。北海物は荷動き鈍化で勉売するも、荷凭れ傾向である。

2月1日～20日の販売量は1,346トン前年比123%、平均単価はkg¥87前年比61%で数量増ながら単価安の厳しい販売環境が続いている。

2月25日(火)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷140トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥1,300～ L大 ¥1,500～1,300、 L ¥700 ～

北 海 20kgNT2L ¥1,200～ L大 ¥1,100～ 900、 L ¥750 ～ 700、

M ¥400～ 300。

【太田市場】 入荷462トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥1,300～1,100、 L大 ¥1,300～1,100、 L ¥1,000～ 800、

M ¥800～ 700。

静 岡 10kgDB2L ¥1,300～1,200、 L ¥1,700～1,500、 M ¥1,400～1,300、

B ¥1,100～1,000。

愛 知 10kgDB2L ¥1,300～1,200、 L ¥1,500～1,400、 M ¥1,200～1,100、

B ¥900 ～ 800。

【名古屋北部】 入荷175トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥1,400～1,200、 L大 ¥1,400～1,200、 L ¥1,200～1,000、
M ¥1,000～ 800、

静 岡 10kgDB2L ¥1,200～1,100、 L ¥1,800～1,600、 M ¥1,400～1,300、
B ¥1,100～1,000。

愛 知 10kgDB2L ¥1,300～1,200、 L ¥1,600～1,500、 M ¥1,300～1,200、
B ¥1,000～ 800。

【大阪本場】 入荷116トン 強保合

兵 庫 10kgDB2L ¥1,000～ 600、 L ¥1,300～ 900、 M ¥900 ～ 800、

北 海 20kgDB2L ¥1,200～1,000、 L大 ¥1,300～1,000、 L ¥1,100～ 800、
M ¥800～ 700。

静 岡 10kgDB2L ¥1,800～1,400、 L ¥2,300～2,000、 M ¥1,800～1,500、
B ¥1,800～1,500。

長 崎 10kgDB2L ¥1,500～1,400、 L ¥2,000～1,800、 M ¥2,000～1,500、
B ¥800 ～ 500。

【福岡市場】 入荷132トン 弱い

愛 媛 10kgDB2L ¥800 ～ L ¥1,000～ 900、 M ¥1,000～ 900、

北 海 20kgDB2L ¥1,400～1,300、 L大 ¥1,400～ 800、 L ¥1,000～ 700、
M ¥1,000～ 600。

長 崎 10kgDB2L ¥1,400～1,200、 L ¥1,800～1,500、 M ¥1,600～1,300。

供給(産地)の動き

1月の主要市場の玉葱の販売量は前述の様に前年比4%増、価格は前年比37%安となっている。販売量は前年を上回ったものの、価格は大幅安となって

いる。コロナウイルスの感染拡大で、中国からの輸入が激減することから、需給の改善を期待する声もあるが、加工筋の在庫は意外に多く、早生物の生育前進化で出回りが例年より早いほか、食品廃棄の改善政策や人の移動制限等で需要が減退傾向にあり、当面需給の改善は期待薄の状況にある。

3～4月に出回る早生産地の出荷状況は、静岡では前進化が進み出荷進捗率は80%前後に達しており、3～4月の出荷は計画より大幅に減少する。続く長崎は、中心産地が出荷の最盛期を迎え、順調な作柄を反映して3月出荷は前年を上回る予想である。続く佐賀は数年来のペト病の被害で玉葱の生産性が低下し、減反が進んでいる。先週も長崎・佐賀産地に出向したが、佐賀では昨年まで玉葱だった圃場が麦に変わっているのが目に付く。作付・生産概況の詳細は入手していないが、前年比15%前後の減反になっていると予想している。但し、ペト病被害の少ない早生系は増反傾向にあり、減反は中晩生が主力で、早生系は生育順調で3～4月の出荷は前年を上回ると見ている。愛知は早生主力の産地で4月にピークを迎える。淡路島では、早生系のレクスター種が増反されており、4月後半からピークを迎える。北海物は在庫増で、出荷の後ズレと周年販売計画で7月まで出荷が続く。

輸入動向

1月の輸入は、速報値で22,734 トン前年比86%と減少した。主力は中国物で輸入量の92%を占めている。コロナウイルスの影響で激減が予想されていたが、1月は大きな影響はなく、2月からは激減の予想。国別では中国が22,227トン前年比92%。アメリカが2,031トン前年比22%。となっている。

中国、コロナウイルスの影響で、人の移動が制限され2月からは、人手の確保が困難となり、現地価格は日々上昇し、一時は C&F・\$16.00 超まで上昇したが、現在は甘粛省産で C&F・\$11.00 前後に値下がりしている。

ニュージーランド、未だ日本側との成約は進んでいない。産地サイドでは、日本からの発注を期待しており、20kg・C&F・¥1,000の提案もあるが、成約された様子はない。

3月の市況見通し

3月は中国物の輸入は激減するが、年明けから加工需要は減少傾向で。需給バランスは大きく改善される期待は薄く、小売りは春商材の府県産に移行する動きにある。天候次第で多少改善はあるも、市況は前年をかなり下回ると予想する。(了)